

曽於市教育支援センターの「いま」

■ 曽於市教育支援センターが目指す「みんなが安心して過ごすことができる教室」

既存の末吉中学校教育支援センターに加え、大隅中・財部中学校内に校内教育支援センターを設置して5か月が経ちました。

この教室では不登校を「誰にでも起こり得ること」として捉え、「学校に戻すこと」だけをゴールとする従来の考え方から脱却し、子ども一人ひとりの状況に寄り添い「学びの継続」と「社会的自立」を目指し、子どもが「大丈夫」と思える温かい居場所づくりを行っています。

生徒の声 	保護者の声 
E組ができて、学校に行くハードルが下がりました。教室で過ごすことがきつくなったらいつでも行けて、E組の先生が親身になって勉強を教えてくれるのでとても安心できます。	親も子どもも学校とのつながりが保てるので相談しやすいです。校内にE組があることで、子どものその日の体調面や精神面に考慮しながら教室かE組かを選択できています。
学級に行けないことがストレスになっていましたが、人に会いたくない時でも、まったく会わずにE組へ行けるので安心できます。周りを気にせず自分のやりたい勉強に集中して取り組んでいます。	友達に会わないことで気まずくならずE組に登校できるというのは、子どもにとって気持ちが楽なのかなと思います。子どもが登校できる時間に登校し、過ごしやすい環境だと思います。

大隅中・財部中の校内教育支援センターを、みんなにとって「いい(E)場所(組)」になるよう願いを込めて「E組」と名付けました。

絆と居場所をつくる体験学習

末吉ふれあい教室(市立図書館2階)や市校内教育支援センターでは、屋内学習だけでなく教室外での体験学習を実施しています。7月は大隅町のスイカ農家を訪問し、収穫や箱詰めなどを体験しました。地域の方々に見守られながら汗を流して作業に取り組み、子ども達は笑顔いっぱい。作業を丁寧に行うことの大切さや、『やり遂げた達成感』を感じる機会となりました。

2学期も救急救命講習や秋の遠足、運動会などの体験活動を通して、子どもたちの絆づくり、居場所づくりに努めていきます。



■ 子どもも保護者も「笑顔」いっぱいの家庭へ

いよいよ2学期が始まります。「学校へ行けるかな」と子ども達も保護者の皆さまも、期待と不安が入り混じる時期かもしれません。子育ては欠点を探すマイナスの視点ではなく、できたことや今ある笑顔を見つけるプラスの視点が大切です。毎日学校に通うことだけがすべてではありません。たとえ歩みがゆっくりでも、その子らしい成長を見守ることが、子ども達の明日へのエネルギーになります。

市では市教育支援センターをはじめ、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門スタッフが「チーム学校」としていつでも寄り添う体制を整えています。登校や学習、心や体の変化など、どんな小さな悩みでも構いません。一人で抱え込まず、どうぞお気軽に学校や教育委員会にご相談ください。